

中小企業の決算書の見方

企業の経営者が決算書を見て会社の状況を理解するには、
5つのポイントに注力して確認しましょう。

株式会社 稲田財務

東京都大田区中馬込3-23-14-109

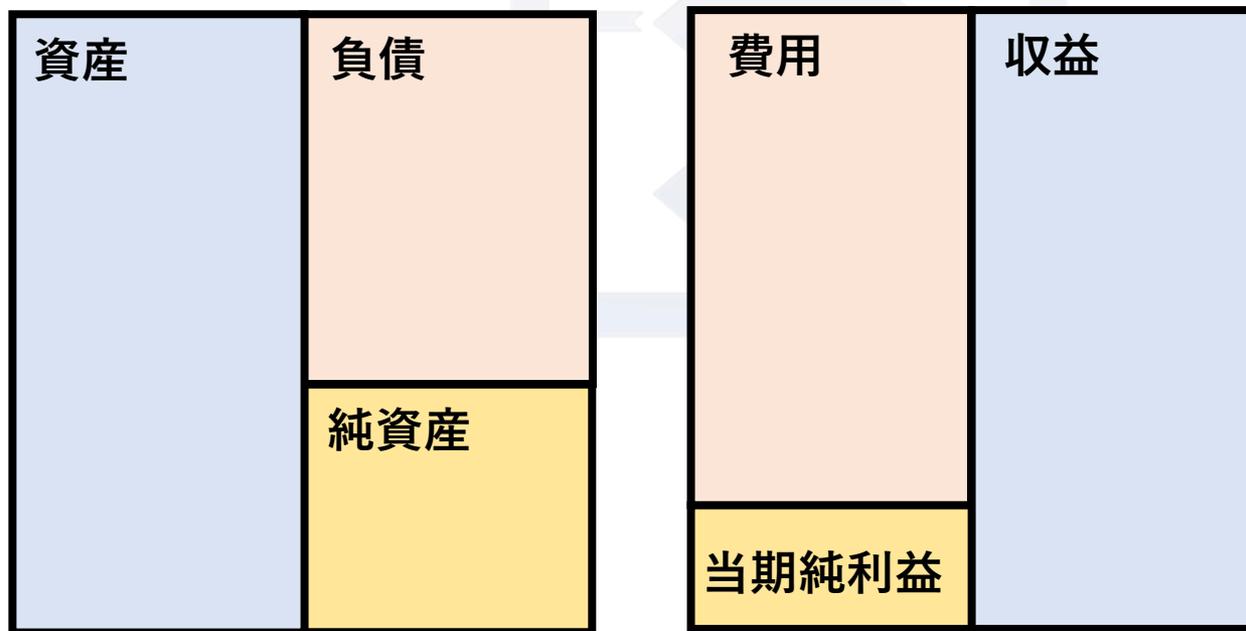
TEL : 050-1808-1540

Mail : info-ifl@inadazaimu.jp

シート使用上のご注意

本資料は財務の知識のない方でも理解できるようにできるだけ簡単な用語を使い説明をしています。そのため一般に使われている勘定科目ではなく敢えてわかりやすく表現している語句もあります。言い回しにご注意ください。

また、本資料は中小企業を前提に作成しております。そのため、上場企業等の大企業とは決算書の記載が違う個所もございます。この点に関してもご了承ください。



はじめに

中小企業の経営者が決算書を見て会社の状況を理解するには、どこにポイントをおけば良いでしょうか。これは銀行が融資の審査のためのものとは少し違うので注意してください。

経営者・・・会社の状況、経営の意思決定
銀行・・・会社の状況、融資の可否、金利の決定

経営者は決算書（試算表）を見て会社の状況を把握し、意思決定の基準にするものだと思います。

そのため決算書を見るための特に重要な項目を5つご紹介します。

1. 変動費と固定費⇒損益分岐点 P/L
2. キャッシュフロー P/L、B/S
3. 自己資本比率 B/S
4. ROA（総資産利益率）P/L、B/S
5. 債務償還年数 P/L、B/S

1. 変動費と固定費⇒損益分岐点

制度会計では製造業等は製造原価報告書（C/R）の作成が義務付けられています。この製造原価報告書は製造等に関わった全ての費用を計上しなければなりません。

しかし、これらの費用の中には売上の増減に左右されないものが多数含まれているため各決算期で粗利益率が大きく変動してしまう可能性があります。

例えば、工場の家賃は売上の増加に左右されずに基本的には每期一定金額であるため、売上が増加したときには原価率が減少し、売上が減少したときには原価率が増加するという現象が起きてしまいます。

これでは現状把握から将来の予測・計画を行うことが難しくなってしまいます。

この問題を解決するものが**直接原価方式**の採用です。

つまり、売上の増加に伴って増加する費用、売上の減少に伴って減少する費用のみを原価（変動費）として捉えます。一般的には、材料費と外注費がこれに該当します。

1. 変動費と固定費⇒損益分岐点

3月 製品100個販売 4月 製品50個販売

材料	2,000	材料	1,000
労務費	1,000	労務費	1,000
外注費	1,000	外注費	500
減価償却費	700	減価償却費	700
家賃	500	家賃	500
合計(原価)	5,200	合計(原価)	3,700
一個当たりの単価	@52	一個当たりの単価	@74

3月 製品100個販売 4月 製品50個販売

材料	2,000	材料	1,000
労務費	1,000	労務費	1,000
外注費	1,000	外注費	500
減価償却費	700	減価償却費	700
家賃	500	家賃	500
合計	5,200	合計	3,700
一個当たりの単価	@30	一個当たりの単価	@30
変動費	3,000	変動費	1,500

この作業は各人が損益計算書（販売費及び一般管理費の内訳書）と製造原価報告書を基に行わなければなりません。手順としてはまず変動費を確定させ、それ以外を固定費とします。また、変動費は企業の実態に沿って区分しなければならないため企業の状況をしっかりと把握することが大切です。

変動費 = 期首製品 + 期首仕掛品 + 当期材料費 + 当期外注費 - 期末仕掛品 - 期末製品

このように変動費と固定費を区別することではじめて損益分岐点を求めることができるのです。

1. 変動費と固定費 ⇒ 損益分岐点

損益分岐点比率

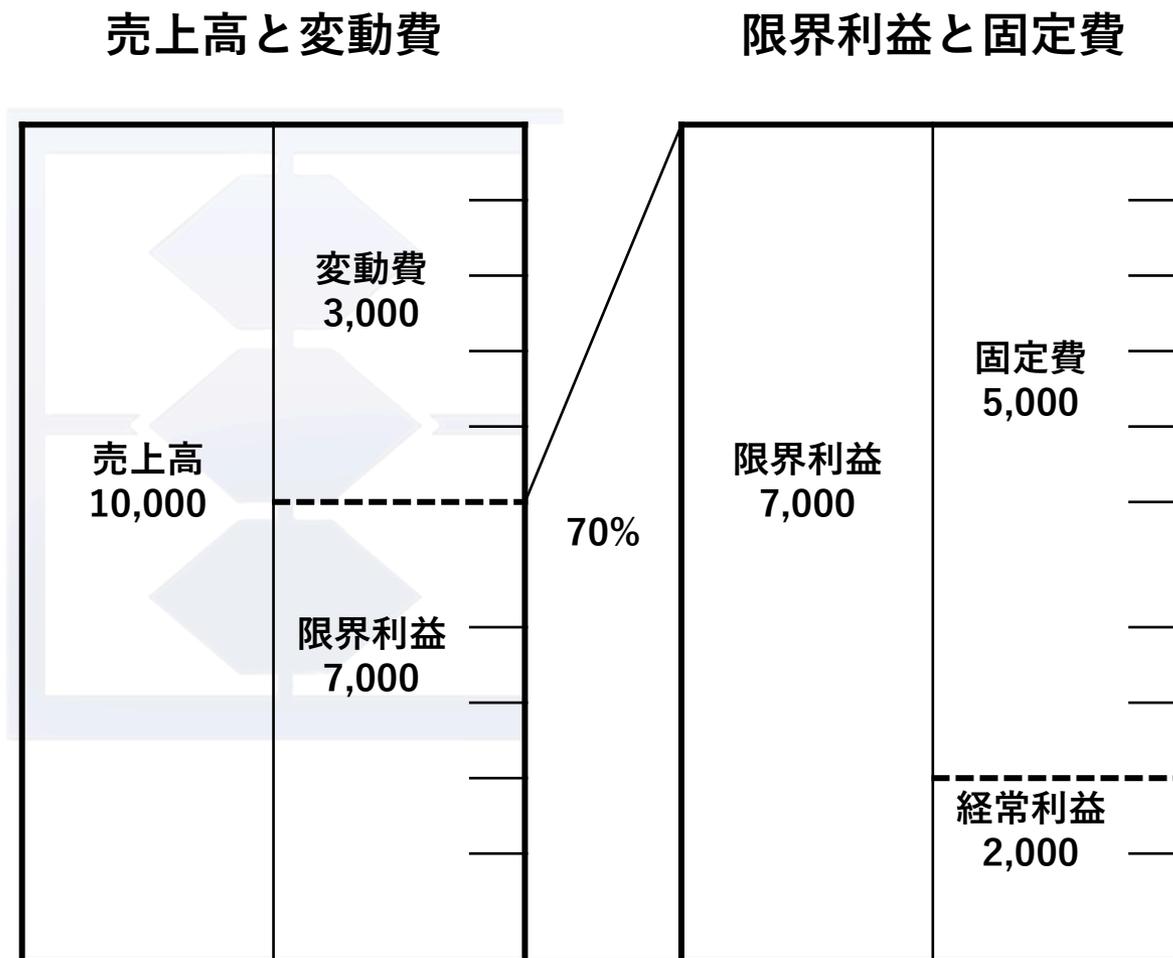
固定費 ÷ 限界利益 × 100

$5,000 \div 7,000 \times 100 \doteq 71.4\%$

損益分岐点売上高

固定費 ÷ 限界利益率

$5,000 \div 0.7 = 7,142$



2. キャッシュフロー

キャッシュ・フローとは、現金の流れを意味し、主に企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいいます。損益計算書と異なり、現金収支を原則として把握するため、将来的に入る予定の利益に関してはキャッシュフロー計算書には含まれません。経営者の皆様が確認するのは決算書や月次試算表から簡易キャッシュフローで十分です。

簡易CF = 当期純利益 + 減価償却費 - 元本返済額

1,000万円 + 500万円 - 2,000万円 = ▲500万円

※最終利益で1,000万円出すことができたが1年通して経営した結果、500万円現預金が減った。

3. 自己資本比率

自己資本比率の考え方ですが誰のお金で会社を運営しているかということですが。

自己資本（資本金、利益の蓄積）と他人資本（銀行などの借入）の割合を見るものです。当然ながら自己資本の割合が高いほうが安全性が高い（破綻しにくい）ということになります。

中小企業の平均は10%前後といわれていますが40%を目指します。

資産 200	負債 160
	純資産 40

$$\text{自己資本比率} = \text{純資産} \div \text{総資産} \times 100$$
$$40 \div 200 \times 100 = 20\%$$

自己資本比率が高いほど負債（借入金）が少ない
自己資本比率が低いほど負債（借入金）が多い

4. ROA（総資産利益率）

ROAの数値を見ると、その会社の資産（B/Sの左側）でどのように利益を生み出しているかがわかります。ROAの数値が高くなればなるほど、効果的に利益を生んでいる会社といえます。

ROAの数値を上げていくためには、2つの方法があります。1つは、売上高に対する利益率を上げていき、収益性を高めることです。もう1つは、総資産を減らして、効率性を高める方法です。具体的には不要となった固定資産などがあれば売却することで、総資産を減らすことができます。つまり、ROAが高い数値になっている会社は、収益性と効率性に優れているということになります。

一般的に、ROAの数値が5%を超えていると優良企業だといわれていますが私達は10%を目指すように伝えています。

$$\text{ROA} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100$$

$$1,000\text{万円} \div 2\text{億円} \times 100 = 5\%$$

利益を出すこと！

利益を産まない資産を処分すること！

5. 債務償還年数

債務償還年数とは簡単に言えば銀行から借りているお金を今の経営状況から何年で返済できるかということです。

目安としては10年以内になっていなければならないのです。

簡易的には利益と減価償却、借入金の元本返済で計算しますが、正確には現金や経常運転資金、高額な役員報酬、特別損失なども考慮して試算します。

百万円

資産	負債
200	160
	純資産
	40

債務償還年数

$$= \text{借入金の総額} \div (\text{当期純利益} + \text{減価償却費})$$
$$1\text{億円} \div (1,000\text{万円} + 500\text{万円}) = 6.7\text{年}$$

10年以内が望ましい。

加点として特別損失、現預金、高額な役員報酬、経常運転資金を借入の総額から引く。

おわりに

以上、5つの決算書の見方をお伝えしましたが、比較するものがないと自社がどのような状況にあるのか把握できません。比較するための指標は、

1. 前年（前月）
2. 計画
3. 業種平均

において確認すればよいと思います。

決算書を深読みできる経営者は、

- ・ 企業価値を上げることができる
- ・ 金融機関からの信頼度が高まる
- ・ 窮境の原因を究明できる
- ・ 利益や現金がいくら会社に残るのかを把握できる
- ・ 現状把握⇒問題抽出⇒解決策の手を打てる

ことができます。

最初は苦労するかもしれませんがいつか必ず見えてくるものがあり、その見え方がどんどん広がっていきます。諦めずにこのレポートを繰り返し読み込んでご理解していただき、皆様の経営のお役立てとなれば嬉しく思います。

動画講座のお知らせ

スキマ時間の積み重ねで会社の財務が分かるようになる！
動画で学べる「IFLオンライン講座」

利益は出ているが資金繰りが苦しいそんな経営者のために

財務経営 事業計画書 決算書 銀行対策

Inada Financial Laboratory

三か月で決算書が読める 財務経営の教科書

- 【このような方におすすめ】
- ・実は決算書の見方がよく分かっていない
 - ・毎月の税理士との打ち合わせに効果を感じられない
 - ・黒字のはずなのに現金が増えない
 - ・運転資金って何？と聞かれて明確に答えられない
 - ・事業計画書の作り方、書式が分からない



講師 稲田 裕 Inada Hiroshi

PROFILE ●1973年広島県福山市生まれ。大学卒業後、食品会社の営業部門5年、外資系生命保険会社で12年を経て、2017年に「独立強いコンサルタント」として独立開業。1,000名以上の経営者に対してコンサルティングを行っている。経営計画書作成や融資サポート、事業承継、M&A、事業再生を多数経験。事業承継案件では、現社長と後継社長との駆け橋として核心経営者。お金が足りない経営からお金が残る経営に変革する支援を得意とする。認定経営革新等支援機関

株式会社稲田財務
03-6319-5822

〒143-0027
東京都大田区中馬込3-1-3 3階
FAX : 03-6369-4913
MAIL : info-ifl@inadazaimu.jp

株式会社稲田財務

<http://inadazaimu.jp/videolecture>

本当に3か月で決算書が読めて財務経営ができるの？詳しくは⇒

会社や自宅にしながら各分野ごとのカリキュラム
をいつでもピンポイントに学ぶことができます！

学べるコンテンツ

<p>基礎講座 (決算書を理解する)</p> <p>全20講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 自己紹介 ・ 中小企業の実態 ・ 企業経営の本質 ・ 利益の必要性 ・ 決算書とは 	<p>応用講座 (企業の実態者と決算書を読み解く)</p> <p>全20講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 付き合うべき銀行 ・ 付き合うべき相手 ・ 債務者区分 ・ 経営指数分析 ・ 実質無借金経営 	<p>実践講座 (事業計画書作成の手引き、改善計画の立案、実践事例)</p> <p>全21講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 事業計画書 (フォーマット) ・ 事業計画書 (作成目的と概要) ・ 事業計画書 (理念・ビジョン) ・ 事業計画書 (概要・俯瞰図) ・ 事業計画書 (沿革)
---	---	--

利益が出ているのに お金が残らない その疑問を解決します

◆スタンダードな財務を学びたく受講

今まで独自の手法で先代から経営を引き継いできました。しかし、これからの時代、スタンダードな財務を学んだ上で自社の改善点を洗い出せるようになりたいと考えていたため受講をしました。その結果、課題が明確になり重要な決断をスピーディーに下せるようになりました。

◆分からないことが分からない、からの受講

そもそも決算書の読み方が分からなかったため税理士との打ち合わせの時間が苦痛でした。一生懸命売上を作っても正しい租利の出し方を知りませんでしたので当然利益が出ない訳です。数字に迷われる不安から解放され、自信をもって経営できるようになりました。(製菓業)

◆銀行と対等にお付き合いしたいと考えていました

銀行との取引の際に納得がいけない点があっても融資をお願いしているという弱みから何も言わずにいました。銀行の考え方、本来の役割など学ぶことができ、こちらの意見をしっかりと伝えることができるようになりました。

料金 32,780円 (税込み) 3か月見放題！

手頃な料金で財務の知識がゼロから学べます。動画はご契約後から3か月、お好きな時間に視聴いただけます。また、視聴期間の延長は1か月から可能です。

株式会社稲田財務 〒143-0027 東京都大田区中馬込3-1-3-3階
MAIL : info-ifl@inadazaimu.jp TEL : 03-6319-5822 FAX : 03-6369-4913

動画講座のお知らせ

- オンライン動画講座
- 全61講座（1講座3～5分）
- いつでもピンポイントに財務経営を学べます
- 決算書を読み込みたい
- どんぶり経営から財務経営に変革したい
- 銀行や税理士の考えを理解したい
- 事業計画書を作りたい

「稲田財務 動画講座」で検索か、



こちらのコードよりお申し込みください